

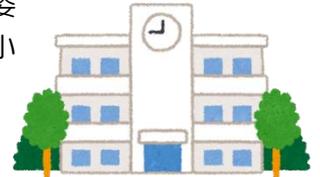
メンタルヘルス通信

<第71号>

2018年9月3日
香川県教育委員会事務局
健康福利課

先輩から学ぶ

新採教職員カウンセリングを始めてから8年目になります。2千名近くの方とお会いしました。不安いっぱい1年目から次第に実力を身に付けて、学校現場の一線で活躍されている姿を拝見するのが何よりの楽しみです。また、日本一狭い香川県ですが、すべての小中学校を回るとなかなか広いと感じます。ようやくたどり着いた学校で、「お待ちしていました」と事務職員の方から丁寧なごあいさつをいただいたり、校長先生との話し合いも楽しい時間になっています。



しかし、楽しいことだけではありません。最近、心配なことが起こっています。教員を続けることができるか不安に思っている新採の小学校教員が増えています。カウンセリングは秘密が守られている場面なので本音が出やすいのです。その背景はさまざまです。「イメージしていたよりも2~3倍くらい忙しい」



「仲間がいない」「帰宅中の車内で涙が止まらない」「眠れない」「胃潰瘍になった」「体中発疹」等々、いずれも悲痛な叫びです。1学期は身体症状中心ですが、2学期以降はメンタル面の症状が出るのではないかと心配です。キーワードは『孤立』。校内に居場所がなく、愚痴をこぼせる相手がないのです。本人自身にも社会経験の乏しさ等の課題もあるようですが、この時期は何がわからないかわからないので、先輩教員に質問したり、相談することが出来ないのが実情です。

また新採教員の受け入れに上手な学校とそうでない学校があるようです。上手な学校は、新採教員を教職員全体で受け入れています。さらに、指導教諭や学年主任が新採教員の良さを見つけて話し合える関係を作ろうとしている雰囲気を感じます。管理職も新採教員に気軽に声かけをするなど、常に見守っています。

新採教員側からの強い要望があります。先輩教員の授業を見学することです。研究授業ではなく普通の授業です。新採教員は日々授業の進め方に不安を持っています。特に道徳の授業はぶっつけ本番でしている新採教員が圧倒的多数を占めており、経験不足で児童に申し訳ないとひとりで悩んでいます。



授業見学のメリットを箇条書きにします。

1. 何事も最初は真似ることから始まる。
2. 自分自身で学んだことは、いつまでも心に残り、当日の授業から役立つ。
3. 教えてもらったことは何年か先に思い出すことが多い。
4. 授業見学後、先輩教員と話がしやすくなる。
5. 自分だけの時間が持てるので、気分転換になる。



小学校の場合は、教員数が少ないため、この制度を実現するにはかなりのハードルの高さがあるでしょうが、これが導入されれば、新採教員の孤立感が緩和されて、メンタル面にもいい影響が出るのではないかと期待しています。

臨床心理士

廣田邦義